

<総合政策部長>

本日の午後、5 月 31 日までとされていた、愛知県を対象とした緊急事態宣言の延長が決定される。大村知事からは、愛知県緊急事態措置については基本的に現在の措置を継続するとの発言があった。

<危機管理課長>

措置の延長に関する周知として、駅や各部署での注意喚起の掲示物、i-ビジョンのデータを更新する。

公共施設やイベントへの対応については、延長期間に係るものの中止・延期あるいは形態を変えての実施という報告を各部から受けている（詳細は資料のとおり）。この会議の後、確定した資料について 5 月 31 日に報道発表を行う。

<活力創造部長>

本年度の七夕まつりについては、盆踊り等の集客イベントを中止し、オンライン・飾り付けのイベントに限定して実施する方針で調整している。これについても、同日報道発表を行う。

<保健所長>

本年度 4 月 1 日～5 月 26 日の新規陽性者数は 789 人で、昨年度までの一宮市の陽性者数が 1,100 人弱である。つまり、昨年 1 年度分の 4 分の 3 に相当する数が、直近 2 ヶ月で発生していることになる。

連休以降に発生した 3 つのクラスター（7I、7K、7V）について現状を報告する。

7I（医療機関）においては、県のクラスター対策班の派遣があり、ゾーニングやスタッフへの訓練等必要な措置を講じている。この数日間では新たな感染は確認されていない。

7K（医療機関）からは、コロナ病床をもつ関連病院との連携によって、新たな感染を防ぐ体制をとっている。こちらも、この数日間では新たな感染は確認されていない。

7V（高齢者施設）では、未だに新たな感染が確認されているが、常駐の医師・看護師、関係医療機関の協力により、関係者への積極的な検査を実施しているとのこと。

<消防長>

救急救命士によるワクチン接種を容認することについて、厚生労働省で検討が進んでいる。

災害現場において救急救命士が注射を行う事例があることから、病院での実習や、人形を使った訓練を行っている。ある救急救命士からは、静脈路（いわゆる点滴）よりワクチン接種等の筋肉注射の方が比較的行いやすい、とも聞いている。

<市民健康部長>

高齢者向けのワクチン接種について、大規模病院等、市内の医療機関の協力もあり、7月末までの接種に関しては一応の目途が立っている。

引き続き、基礎疾患のある方や高齢者施設の従事者、65歳未満の一般市民へと接種を進めていくこととなるが、今後は対象者数や使用可能なワクチンの種類の増加への対応、接種者のデータ管理といった新たな事務が発生・増加することが予想されるため、新型コロナワクチン接種推進室の体制強化を希望している。総務部（人事課）とは既に調整に入っており、近日中に発表予定。

<市長>

日本経済新聞の掲載記事に、第4波では「現役世代の重症者が増えている」とあり、確かに第3波と比べて50代以下の重症者の割合が3倍以上増えており、引き続き警戒をすべきということではあるが、依然として60歳以上の高齢者の重症者が多いということも読み取れる。ワクチン接種によって重症化を防ぐことができれば、ECMO等の医療資源への負担が軽くなることが期待できる。そのためにも、新型コロナワクチン接種推進室の体制強化に向けて、急ぎ準備を進められたい。

<副市長>

今後の業務を考慮すると、お手伝い感覚でこなせるものではない。増員対象となった職員におかれては、リーダーになるぐらいの気概をもって取り組んでももらいたい。各部から精鋭を選出し、1日も早く現場で活躍してもらいたい。

<市長>

現在、新規感染者数（7日間合計）の推移グラフを市公式ウェブサイトへ掲載している。これによると、直近の推移では下降線が見られるがどう捉えるか。また、保健所では検査件数や相談件数も公表しているが、これらの数値について現状における分析をお願いしたい。

<保健所長>

新規感染者数については、沖縄県を除き全国的にピークアウトの動きが見られ、一宮市でも同等であると解釈している。しかし、愛知県でも依然として重症者数は多く、医療現場では厳しい状態が続いている。

<市長>

市に寄せられる多数の意見や問い合わせの中には、心無い言葉や内容のものもあると聞いているが、公正公平に対応できるよう、人事課においては対応マニュアルを再確認されたい。また、電話だけでなく市民ポスト・市民メールといった意見制度を活用してもらおうよう案内・周知を。